

121015 リンドウ

今回は、秋の山野を代表する花、「リンドウ」を紹介します。

高さは60 cmほどの多年生植物ですが、花の頃（9～11月）には茎が倒れていることもよくあります。

また、花は晴天の時には開いていますが、それ以外の時は閉じていることが多いです。

この可憐な「リンドウ」、かつては水田周辺の草地やため池の堤防などに自生していましたが、それは定期的な草刈りで草丈が低く保たれていたためです。

近年は、そのような場所でも草丈が高くなってしまったので、なかなか見つけることは難しくなっていました。

リンドウは、漢字では「竜胆」と表記されますが、根や茎が非常に苦く、熊の胆より苦いということから“竜の胆嚢”という意味の「竜胆」と名付けられたことが命名の理由だそうです。

最初に“秋の山野を代表する”と書きましたが、残念ながら「秋の七草」には選ばれていません。

何故か、夏に咲く キキョウ（桔梗）は選ばれているのですが…

◆写真①： 山頂部の草原に…

◇ひときわ目立つ、鮮やかな青紫色の花を見つけました。

◆写真②～⑤： リンドウ

◇探していたリンドウでした！

◇草原にぽつぽつと生え、群落を作ることは少ないようですが、この日、見つけたのはわずかに2株だけでした。（10月上旬）

◆写真⑥～⑧： ツルリンドウ

◇主に山地の木陰に生え、ツルが地面を這ったり草木にからんだりしますが、あまり高くまで登ることはなく、せいぜい人の背丈くらいまでが多いです。

◇鮮やかな花色の「リンドウ」に比べて、控えめな淡い紫色の花ですが、冬に熟す実は赤くてよく目立ちます。















